



インド・アーナンダ病院ニュース

ANANDA HOSPITAL NEWS No.4

特定寄付金に税制上の優遇措置が認可(ボランティア募集中) E-mail/info@iwvs.jp



アーナンダ病院15周年記念動画が
YouTubeでご覧いただけます。

YouTube インド福祉村 検索



ホームページもご覧ください。

インド福祉村協会 検索 <http://iwvs.jp/>

アーナンダ病院15周年記念動画は
インド福祉村協会ホームページでもご覧いただけます。

「日本とインドのきずな」

- ★ 三重大学医学部研究科家庭医療学 医師 学生アーナンダ病院訪問
- ★ 遠隔医療3年間の成果 4万人患者:測定成果
- ★ 豊橋さわらび福祉村病院文化祭 インド物産展開催
- ★ アクティシステムKK(浜松) 2名アーナンダ病院研修



三重大学医学部研究科家庭医療学 医師 学生アーナンダ病院訪問 竹村 洋典

この度、三重大学の医学生にアーナンダ病院へ訪問する貴重な機会をくださり本当にありがとうございました。この機会は学生にとっても人生の大きな転機となった可能性もありますが、わが教室にとっても大きな意味を持つ訪問でした。

2人の女子学生は、まだ臨床実習に入っていない状態でしたが、三重大学のどの医学生もが経験していないような、さまざまな熱帯病について学んだようです。また、クシナガールの人々の生活に驚いたと思われる。さらに、グプタ医師の人となりに感動を覚えたのではないのでしょうか。教員の立場から眺めても学生たちはよい学習をしたと思われましたが、詳細は彼女たちの報告をご参考してください。

竹村にとっても、さまざまな可能性秘めた素晴らしい場との遭遇でした。以前、アメリカ合衆国やタイ王国で熱帯医学の研修を受けたのではありますが、ここでの滞在中に出会った感染症の数々、さらには熱帯病に対する現代の検査方法や治療方法などは、竹村が熱帯医療研修後にさらに臨床経験を積んだことでもあります。さらに非常に貴重な経験でした。また、感染症の恐ろしさを知っているがゆえに、引率していた医学生健康などに最大の配慮をせざる負えない緊張する日々でもありました。



(3名とグプタ医師)

アーナンダ病院訪問 三重大学大学院臨床家庭医療学

教授 竹村 洋典

クシナガラの人々の生活は日本のそれと大きく違いましたが、日本の生活がいいとは言いきれない、人々のゆっくりとした時間の流れが竹村のにとっては魅力的でもありました。子供たちの屈託のない明るさが非常に印象的でした。また、日本を含めた先進国の不用意な情報で、住民に陰りを生じないように注意しなくてはならないと思われました。我々は8月に訪問したのですが、24時間続いたあの過酷な暑さも住民の立場に立てる重要な環境であったようです。

そして何よりも特記すべきは、グプタ医師の人となりです。彼の博愛と情熱に満ちた言葉とその行いには共感するものがたくさんありました。自分を犠牲にしているようにさえも思える診療への情熱は、きっと昔の日本人医師が持っていたと予想される人々への非常に熱い心と同等のものに思えました。例えば彼が紙に「病気」、「貧困」、そして「教育不足」の文字を書いて、これらが悪の連鎖を引き起こして、どれかを解消すれば何とかなると力説してこと。今のインドに最も必要なのはこのうち「教育不足」に対

する対応であり、これについて日本がその手本であると語っていた時の彼の真剣な目を竹村は忘れられません。

今後、三重大学の家庭医療にかかわる医師たちや地域医療に興味を持つ学生らが、アーナンダ病院を訪れ、日本では経験することが少ない病気を体験し、クシナガラの人々と接し、そしてグプタ医師とともに診療する、彼と苦楽を共にする機会があれば、両国にとって非常に有益なことと思われます。今後の三重大学家庭医療学教室とのアーナンダ病院との連携を心より期待しております。

最後になりましたが、このような日本の医学生や医師にとっても貴重な示唆を与えてくれるアーナンダ病院を運営されているインド福祉村協会のますますの発展を心よりお祈り申し上げます。



(グプタ医師・竹村教授)

アーナンダ病院実習研修 三重大学医学部

長野 有花子

2014年7月28日～31日にかけて大学の早期海外実習でアーナンダ病院を訪問しました。インドの状況を想像しながら出国しましたが、「百聞は一見にしかず」まさにその言葉のとおりでした。

アーナンダ病院は16年前、日本の特定非営利活動法人インド福祉村協会の支援のもと北インドに位置するクシナガラの農村部に建設されました。十分な設備が整っていない環境において、問診、身体診察の重要性を肌で感じました。日本ではCTやMRIなどに依存してしまいがちな傾向にあるように思いますが、検査が高額なため、村の住民たちはなかなかそれらを受けられません。また、検査にはお金がかかるため、検査を受けてくれない患者も少なくないといえます。日本のように保険制度が定着しておらず、貧富の差が激しいインドではよくある光景です。近年著しく発展を遂げているインドですが、貧困人口は約30%といわれ、大きな問題となっています。実際に病院に来れない人々が多数存在しているのでしょうか。病院に来た人々をいかに診断するか、来れない人々をいかに救うか、難しい課題であると感じました。



(部落の子ども達)

さらに問題として、国別妊婦死亡率はインドが世界の約1/4を占めており、乳児死亡率も高い。このような現状を改善すべく、アーナンダ病院では母子健康手帳の配布を行っています。日本で当たり

うではないと重く感じました。

大きく日本と異なっていたのは鑑別疾患です。結核や腸チフス、マラリアなど日本ではめったにみられない疾患が並びます。私立病院を見学させていただいたときに会った入院患者のほとんどは髄膜炎でした。地域性を考えて診察を行う必要があると思いました。肺音を聞いたり、肝臓を触知したりなど貴重な実習となりました。診察の仕方なども丁寧に教えていただいたので、今後にぜひ活かしていきたいと思えます。

グプタ先生の、患者さん一人ひとり丁寧に患者さんと接する献身的な姿が忘れられません。貧困層が治療を受けられる病院はインドで多くなく、この地域にとってのアーナンダ病院、グプタ先生の存在の大きさを感じました。十分とは言えない設備の中で、問診、身体診察の重要性を学びました。グプタ先生がおっしゃった、「貧困・無知・病気」が相互に関与しており、それらのうちどれか1つかけても幸福にはなれない」という言葉が印象に残っています。誰もが平等に満足のいく教育を受けることができないインドでは、いかに知識を普及させるか、意識をもたせるかということが重要であると感じました。

病院の近くにある村を訪問した際、村の人たちは私たちをあたたかく迎えてくれました。カースト制が残っていることが目に見えてわかり、複雑な気持ちになりましたが、子どもたちのキラキラした笑顔を見て、幸せとはいったい何かということを考えさせられました。

今回の実習は私にとってとても貴重な経験となり、この実習に参加できて本当に良かったです。このような機会を与えてくださり、お世話になった方々に深く感謝致します。本当にありがとうございました。

アーナンダ病院実習研修 三重大学医学部

中野 恵理

私は2014年7月28日～31日、アーナンダ病院で研修し、グプタ先生の診察見学や村への訪問をさせて頂きました。診察見学の際、日本でめったに見ることのない疾患を多数経験し、さらに触診や聴診もさせて頂いたため、とても勉強になりました。

今回の実習では主にアーナンダ病院での診察を見学していましたが、鑑別疾患に挙る疾患が日本とは異なることを実感しました。とくに実習中、腸チフスやA型肝炎、PID、TBの患者さんを多く見たほか、ラマダン明け特有の症状(消化性 ディスペプシアや糖尿病コントロールの話など)といった宗教と疾患の関連性もみられ、診断にあたっては症状からだけではなく地域の特性を考えることも必要だと実感しました。今回、日本では稀な疾患を多数経験できたことは、国際化の進む日本においてもとても重要な経験になったと感じます。

また、臨床的なことだけでなく、村への訪問やグプタ先生とのお話から、インドの文化や現在の状況、またアーナンダ病院に関わる方々の精神を感じることができ、充実していました。日々の診療は過



酷なものだと思いますが、それでも無教育、貧困、病気のサイクルを断ち切りたい、貧困地域の患者さんの役に立ちたいと、邁進するグプタ先生の姿が忘れられません。

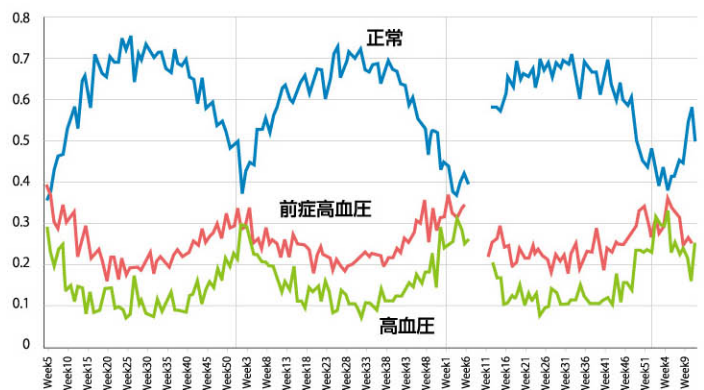
今回素敵な人々に出会い、私自身も自分にできる形で国際協力をしていきたいと感じました。

最後になりましたが、このような機会を提供して下さったグプタ先生をはじめ、インド福祉村協会の方々にあらためて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

遠隔医療3年間の成果 4万人患者:測定成果

インド福祉村協会理事 三瓶 宏一

2011年1月から開始した自動血圧測定データ伝送は2014年3月までに4万人に達し、そのデータ分析を日本で行うことで高血圧患者の季節ごとの割合の変化や気温との相関関係のトレンドが徐々に明らかになってきました。インド農村部の貧困層の部落民の基本的な健康状態を知る貴重なデータとして今後のこの地域住民の公衆衛生の向上に寄与するものとして今後も継続して行きます。



豊橋さわらび福祉村病院文化祭 インド物産展開催

2014年11月1日にあいにくの雨の中、1,000人以上の参加のもとに、盛大なさわらび会の文化祭がおこなわれました。アーナンダ病院15周年を記念してインドの紅茶、絵画、ネックレス、リボンなど多くのみやげものが販売されました。

売上金はインド福祉村病院の支援金として寄付されます。



アーナンダ病院研修レポート

株式会社アクティシステム 鈴木 詩織・近藤 真帆

2014年3月、アーナンダ病院を訪問した。病院は、お釈迦様が入滅された土地として知られるクシナガラに拠点を置き、毎日70人から100人以上の人々が診察を受けにやってくる。病院に到着し、まず初めに会ったのは、病院に駐在するコックの方や、運転手の方である。美味しい食事や、周辺の村の案内など日本人顔負けのおもてなしをくださった。院長のグプタ先生は病院が休みにもかかわらず、忙しい様子だったが、仕事の合間をぬって病院内や庭を見せてくださった。病院には、医療器具やベッドが揃っているが人手不足のために苦労することも多いそうだ。グプタ先生は患者を診る傍ら、従業員の教育もなさっている。また、病院での勤務が終わると、エコーをするために他の病院へ赴く日も少なくはない。グプタ先生を突き動かすものは何だろうか。グプタ先生はJICAを通して日本人の医師に出会い、感銘を受けたそうだ。『都市病院で仕事をする選択もあった。しかし、私はクシナガラという小さな町で人々を助ける道を選らんだ。』とグプタ先生は言う。大きな病院であればそれに見合った収入を得ることができる。しかし、グプタ先生は困っている人々を助けることに生きがいを感じ、今の仕事をなさっている。そんなグプタ先生と出会い、今回の研修では働くことの意味を考えさせられた。労働の対価として自身の生活の保障を得ることも重要だが、それ以上に他人のために働くということの意義を再確認することができた。私は4月からアクティシステムという企業に就職した。グプタ先生のように直接人に触れ合う仕事ではないが、間接的に人々の役に立てる仕事ができると考えている。まだまだ新入社員ではあるが、1日も早く仕事をこなせるようになり、人々の生活に貢献したいと強く決心する。(鈴木 詩織)

ブッダ入滅の地として有名なクシナガラにある、インド福祉村・アーナンダ病院へ研修に行ってきました。アーナンダ病院は、満身に医療サービスを受けられない貧困層のために設立された病院で、グプタ医師と十数人のスタッフで運営されています。日本からのボランティアスタッフも定期的に訪れ、治療の手助けをしているそうです。この病院は、診察料は無料で薬代も安価に設定されており、誰もが医療サービスを受けられる環境を整えています。また、地域の女性向けの健康セミナーを開催しており、子育てや衛生に関する知識を教えています。お話を聞く中で、貧しい人々を救いたいという一心で、庭園のデザインから診察、医療機器のレクチャーまで、一人で様々なことに努力を重ねてきたグプタ医師に感銘を受けました。私も、たとえ小さなことでも、人のために何かをしてあげられる人間になりたいと思いました。また、周辺の村に行った際には、そこに住む人々の温かさに触れ、どうしてここに病院を建てたのか理由が分かった気がしました。

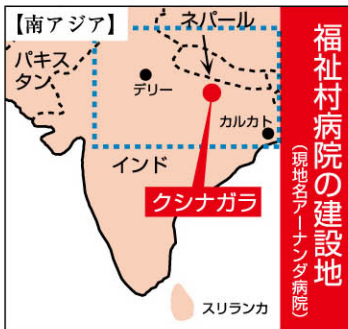
今回は様々な文化に触れ、日本で何不自由なく生活することができるという幸せを噛み締めた研修でした。最後になりますが、グプタ医師を初め、食事や住環境を提供してくださったスタッフの皆様、親切にくださった村の方々、本当にありがとうございました。(近藤真帆)



(診察)



(木を運ぶ象)



福祉村病院の建設地
(現地名アーナンダ病院)



(涅槃堂クシナガラ)

現地住所

ANANDA HOSPITAL TEL:91-92354-24671 / 91-5564-217544

住所:VILLAGE SIRSIA DIST KUSHINAGAR 274403.UP.INDIA

入会のお願い

正会員:年会費 5,000円 …… 総会の議決権があります。協会の会報を毎回お届けします。プロジェクトの進み具合、現地の情報を逐次お知らせします。現地宿泊の便宜を図ります。

賛助会員:年会費 1,000円 (-口以上) 総会の議決権はありません。協会の会報をお届けします。

【会費・寄附の支払い方法】

郵便振替 口座番号:00830-2-65008 加入者名:インド福祉村協会

郵便振替用紙を利用し、最寄りの郵便局より手続きを行ってください。ご一報いただければ振替用紙をお届けします。

銀行振込 ゆうちょ銀行 口座番号:0065008 支店名:089 口座種別:当座 加入者名:特定非営利活動法人インド福祉村協会
入金が確認されましたら領収書をお送りします。寄付金は、税制上の優遇措置が受けられます。

募金のお願い!

少しでもあなたの善意を
分けて下さい。

インド福祉村協会 (INDIA WELFARE VILLAGE SOCIETY)
理事長/三木隆治 専務理事/高木元昊 常務理事/大竹紘一
理事/伊藤孝道、中村義博、田中久子、K・L・バハール、樋口恵子、加藤伸也、吉田晃
事務局長/渡辺康二
ホームページ/http://iwvs.jp E-mail/info@iwvs.jp

■発行者 インド福祉村協会 (IWVS)
■発行人 三木隆治 ■編集 大竹紘一 ■協力 文創社
■インド福祉村協会事務局(豊橋メイッククリニック内)
〒440-0035 愛知県豊橋市平川南町73
TEL:0532-66-1010 FAX:0532-66-1073